

県立印旛明誠高等学校

目 標

- ・ 異文化の理解・深化と併せて、自国文化の再認識を図る。
- ・ 国際交流を推進し、異文化理解等により国際的な視野に立ち、主体的な学びの実践を促進する。
- ・ 海外修学旅行の実施と併せて、国際理解教育の一層の充実・発展を図る。

留学生等との交流会の開催

- (1) 日 時：平成30年6月21日（木）14時から16時30分
- (2) 会 場：本校2E教室、2F教室、大教室、視聴覚室
- (3) 留学生等：メロス言語学院の留学生等8名
- (4) 参 加 者：第2年次生徒165名、教員11名、 計 176名
- (5) 内 容：

- ・ クラス別交流会（留学生講話）

第2年次の4クラスに台湾からの留学生が2名ずつ入り、台湾の紹介を行った。各留学生は、用意してきたスライドや写真を見せながら、台湾の若者の間で流行しているもの、修学旅行の班別行動向けにお勧めの場所、日本人が台湾を訪れる際に注意すべきマナーやタブー、日本に留学して感じた台湾との違いや共通点などについて語り、引き続いて本校生徒と質疑応答を行った。



- ・ 希望者との交流会（放課後）

台湾からの留学生8名と本校の希望する生徒23名が1教室に集まり、交流を行った。クラス別交流よりも少人数で、顔と顔を合わせての交流となり、本校生徒も交流に積極的な者が多かったため、音楽などの個人的な趣味や、留学生の日本での苦労話などで話が盛り上がった。最後に 仲良く笑顔で集合写真を撮影し、帰りは学校正門前のバス停まで見送り、別れを惜しんだ。



(6) 事前学習：

1 1月の台湾修学旅行の事前学習であるため、2年生の旅行委員が中心となって企画・立案を行った。また、総合的な学習の時間等を活用し、台湾についての調べ学習を行い、理解を深めた。

(7) 事後指導：

1 1月の修学旅行では、新北市立樹林高級中學を訪問し、学校交流を行うことになっているため、今回の交流経験を踏まえて、中国語での挨拶や歌の練習など、引き続き旅行委員を中心として、台湾についての学習を継続することとした。

(8) 参加者の感想等：

- ・ 私たちと年の近い留学生ばかりだったので、共通の話題が多く、たくさん話すことができました。
1 1月の台湾修学旅行がますます楽しみになった。
- ・ 日本で日本語を学んでいる方たちなので、皆さん日本語が上手だったが、互いにうまく伝わらないときは英語も使って理解しようと努力した。英語は共通語だと実感した。
- ・ 放課後の希望者交流は、留学生の方とより近い距離で話せたので、仲良くなれた。

(9) その他

夏休み前日7月20日（金）の放課後に、メロス言語学院に短期留学するため来日した外国人留学生4名（うち台湾からの留学生2名）が、日本人職員の引率で来校した。交通費等はすべてメロス言語学院負担で、本校主催の企画ではないが、2年生旅行委員ほか有志生徒8名が校内を案内し、その後一緒に昼食をとりながら交流し、最後は部活動の見学に同行した。11時30分から14時まで約2時間30分の滞在だったが、進んで案内役を引き受ける生徒が出るなど、国際交流に対する積極性が育っていることが実感できた。

事業の成果

- ・ インターネットや旅行情報誌で台湾について事前に調べていたが、実際に台湾人留学生と接することで、台湾に対してより強い興味を持つ生徒が増えた。
- ・ 台湾からの留学生による台湾紹介を聞くことで、生徒が台湾に行ったときに日本をどのように紹介すればよいか、深く考えるきっかけとなった。
- ・ 修学旅行に向けて班別行動等の計画を立てていたが、台湾からの留学生の話聞いて、より具体的なイメージを持つことができ、修学旅行に向けて、生徒の期待が更に高まった。

今後考えられる新たな取組

- ・ 県内の外語系大学に来ている留学生を招いての交流会
- ・ 台湾又はそれ以外の地域の留学生等との英語による意見交換・交流会
- ・ 県総合教育センター主催の国際理解教育に係る希望研修への教員の参加
- ・ 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた県内都市ボランティア等への生徒の参加の推奨